

キャラクター名
<無名> ピクシー

プレイヤー名

種族	人間	種族特徴	剣の加護/運命変転		
生まれ	魔動機師	性別	女	年齢	23歳
冒険者Lv	4	経歴	A2-2:裕福な家に生まれた～貴族領主家系		
経験点	4000		A4-4:両親に愛されて育った～家族関係良好の為 C6-2:国王に会ったことがある～両親が重役についており、その手伝いや後の後継ぎとしての顔見せ等		

能力値	A-F	成長	他修正	能力値	ボーナス
器用度	12	2		22 + 1	3
敏捷度	6	2		16 + 2	3
筋力	7	2		13	2
生命力	8			12	2
知力	10	3		22	3
精神力	12	2		23	3

技能	Lv.	技能	Lv.
シューター	3	アルケミスト	1
マジテック	4		
スカウト	1		
レンジャー	1		
セージ	3		
エンハンサー	1		

戦闘特技	ダメージ	備考
ターゲットイング	1-280p	p
鷹の目	1-280p	p
	p	p
	p	p
	p	p
	p	p
	p	p
	p	p
	p	p
	p	p

言語	会話	読文
交易共通語	○	○
汎用蛮族語	○	
魔動機文明語	○	○
魔法文明語	○	○

練技/呪歌/騎芸/賦術		
キャッツアイ		
パラライズミスト		

技能	技能レベル	基本命中力	基本回避力	基本ダメージ
ファイター	0			
グラップラー	0			
フェンサー	0			
シューター	3	6	6	5

鎧と盾	必要			
	ランク	筋力	回避力	防護点
鎧	ハードレザー		13	4
盾				
その他補正(防具習熟/回避行動 etc)				
回避技能				合計値 0 4

武器	用法	必要筋力	命中修正	命中力	C値	追加ダメージ	威力	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
ジェザイル 射程50m,装填数3	2H	10		2d+ 6	10	8											
サーペンタインガン 射程10m,装填数3	1H	1		2d+ 6	11	7											
				2d+													
				2d+													
				2d+													
				2d+													
				2d+													
				2d+													

制限移動	通常移動	全力移動
3 m	18 m	54 m

回避	防護点
2d+ 0	4

HP
24

魔法技能	Lv.	魔力	魔法技能	Lv.	魔力
魔動機術	4	7			

魔物知識/弱点	先制力
2d+ 6	2d+ 4

生命抵抗	精神抵抗
2d+ 6	2d+ 7

MP
35

装備品	説明
頭	
耳	
顔	
首	
背中	ロングマント 膝下まであるフード付きマント。旅のお供必須。
右手	巧みの指輪 緑色の宝石が付いた装飾。装着すると魔法力+1、魔法と呪術に能力値が+15(ボーナス+2)、魔法詠唱に装飾。
腰	ベルトポーチ 腰のベルトに掛けつけたポーチ。脚座に展開する必要のあるモノが入っている。
足	ロングブーツ 鮮やかな茶色のロングブーツ。
その他アルケミーキット	後腰に装備。賦術を使用できる。

装備品	説明
ウェポンホルダー	武器や盾などを背中に保持できる。
左手 疾風の腕輪	紫色の宝石が付いた腕輪。装着すると機軸度+2。魔法と呪術に能力値が+14(ボーナス+2)
マジスフィア(中)	魔導機術の行使に使用。
パレットスリンガー	左太腿に装備。弾丸を12発まで収納できる。(残弾:12)

その他メモ	自動失敗
・冒険に出た理由/2-1：探している人がいる	チェック
6年前、町の近くでゴブリンに襲われているピクシーの家の領民と、それを庇おうと立ち向かわんとしていたピクシーをゼロが助けた事が出会いのきっかけ。当時ピクシーの地元では度々ゴブリンによる被害報告があがっていたが、国は自国の兵を動かす事は許さず、地元で冒険者達は数が多い事を理由に恐れて仕事を引き受けてくれずに困り果てていた所に舞い込んで来た為、彼の腕を見込んで依頼、ゼロはそれを二つ返事で引き受けた。翌日彼はピクシーの両親である領主の私兵や用心棒数人と共に討伐へ出発、巢は見事壊滅させたが、その巢の主力はその日出払っており、結果打ち漏らしていた。同日夜に巢の主たるゴブリンの主力が報復として領主邸へ夜襲。完全な深夜に闇に紛れての襲撃に警護の私兵連は立つ手が無く倒されていく中、ゼロは襲われ続を奪われ怯えていたピクシーを救出、更に残った僅かな戦力を集め指揮し、ゴブリンの首領を打ち取った。	□□□□⑤
後日それに感激したピクシーの両親にお礼を兼ねた宴会を開かれ、その日は盛り上がった。そして翌日早朝、ピクシーの両親から「私兵に当たらないか?」と持ち掛けられるが、ゼロは「目的がある」とその話を躊躇う事無く蹴り、ピクシーには何も告げる事無く去って行った。	□□□□⑩
二度も助けられ、その間ほんの僅かでありながらも会話を交わす内、少なからず好意と信頼を寄せていたピクシーとしては何も告げず去ら	□□□□⑮
	□□□□⑳
	□□□□㉓
	□□□□㉗
	□□□□㉙

